西二葉町遺跡発掘通信

No.10
令和7年
7月号

みなさま、いかがお過ごしでしょうか？

いよいよ夏がはじまりました！発掘調査現場でも、熱中症に気を付けながら、休憩をとりながらの調査となっています。

現在の発掘調査は、旧北校舎があった周辺を行っています。まずは、北側と西側のエリアを調査しています。両調査区とも、戦後すぐの愛知県立第一高等女学校の建物基礎に始まり、江戸時代を通じて所在していた成瀬家に関係すると思われる柱穴やお庭の痕跡、成瀬家よりも前の戦国時代以前にさかのぼると思われる溝などが見つかっています。戦後間もないころの遺物として、ウシを象ったセトノベルティや湯飲みなどが見つかっています。また成瀬家に関わる遺物として、陶磁器のほか、文字の刻まれた硯や焼塩壺、瓦などが見つかっています。これらの調査成果について、本広報誌の中で詳しく解説しています。ぜひ、ご一読ください。

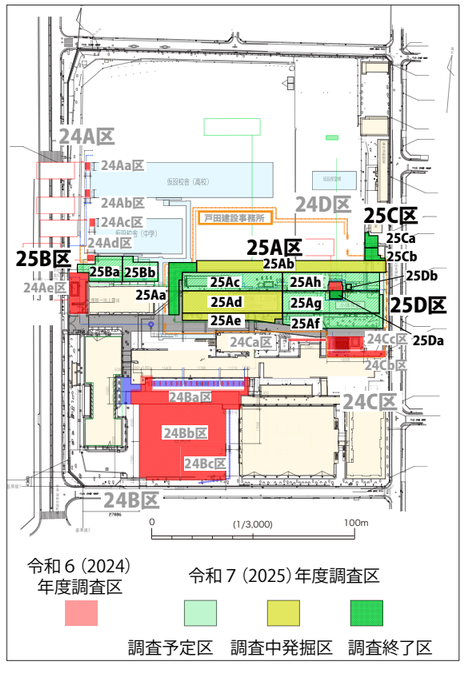
暑い夏は始まったばかりですね。どうぞみなさまも、暑さに気を付けてお過ごしください。（調査課長　堀木真美子）

「ちょっと名大史」の記事に取りあげて頂きました

東海国立大学機構大学文書資料室発行のウェブサイト記事「ちょっと名大史二五二」に、西二葉町遺跡の調査成果が紹介されています。掲載されたのは、昨年度調査区24D区の学校校舎基礎跡です。下のアドレスから見ることができます。こちらも是非、ご覧下さい。

https://nua.jimu.nagoya-u.ac.jp/meidaishi/BHNUreverse.html

「ちょっと名大史 252」へのアクセス

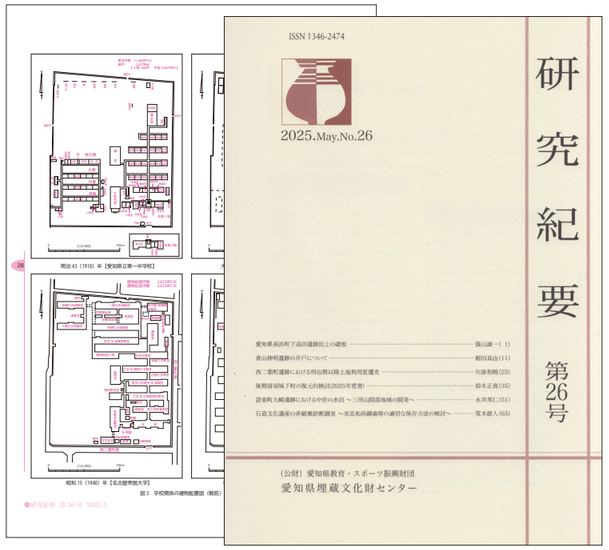


西二葉町遺跡　発掘調査区位置図

「研究紀要」に掲載されました

愛知県埋蔵文化財センターでは、「研究紀要」を年に一号ずつ刊行して、普段からの研究成果を公表しています。今年度刊行の第26号には、西二葉町遺跡における明治時代以降の土地利用変遷史をまとめた論考が掲載されています。よろしければご覧下さい。

発掘調査では、掘削調査に入る前に、その場所についての情報を可能な限り収集します。調査対象は、地形図、地質図、地籍図、土地宝典をはじめ、当地に関する諸文献および伝承など、多岐にわたります。付近で過去に発掘調査が行われていたのであれば、それも情報として整理することは言うまでもありません。



愛知県埋蔵文化財センター刊行「研究紀要」

「研究紀要」へは、右のＱＲコードからアクセスできます。愛知県埋蔵文化財センター HP から「ダウンロード」<「研究紀要」<「第 26 号」に進んで、論文題をクリックしてもご覧頂けます。

西二葉町遺跡発掘通信
No.10　令和7年7月号
編集・発行　公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒498-0017　愛知県弥富市前ケ須町野方802の24
電話（0567）67-4161【管理課】4163【調査課】
ホームページ http://www.maibun.com
Facebook https://www.facebook.com/maibunaichi
Instagram https://www.instagram.com/aichimaibun/
X https://twitter.com/aich
印刷・協力　株式会社イビソク

名古屋帝国大学 学生食堂基礎【24Ｂ区（音楽棟エリア調査区）】

このように、発掘調査は決して行き当たりばったりで実施しているものではありません。関係機関のご理解のもと、貴重な機会と時間を頂いて実施することから、特に調査担当者は事前に周到な準備を行うことが求められます。研究紀要に掲載された論考は、その事前調査に基づくもので、すでに「西二葉町遺跡発掘通信No.2」に概略を掲載しています。

西二葉町遺跡では、愛知県下の中等教育・高等教育の草創期を考える上で貴重な資料が見つかることが想定されます。この遺跡調査では、この論考の成果に対して発掘調査成果でどこまで検証できるのかが、一つの課題になるといえます。（川添和暁）

25Aa区 発掘調査の成果

25Aa区は、旧北校舎エリアの最も西側に設定された調査区です。本号では、近代以降の様子についてお伝えします。

現代の表土を除去したところ、空襲による焼土を廃棄した土坑のほか、焼土を使って整地層とした学校校舎の基礎の跡がみつかりました（下写真）。学校図面と照合・検討したところ、県立第一高等女学校の校舎基礎であることが分かりました。この場所は西の教室舎から東の和楽会館へとつながる場所に当たるようです。

25Aa 区　県立第一高等女学校 校舎基礎 （西より）

25Cb区 発掘調査の成果

東門の調査区25Cb区につきましては、前号の続きで江戸時代の様子をお知らせします。

江戸時代の整地層を掘削除去した下で、柱穴や大きな土坑などの遺構が確認されました。大きな土坑には陶磁器や焼塩壺がまとまって捨てられたようで、同時に窪地の中に土が入れられています。その埋められた土はさらに広くかつ厚く、周辺の地盤を整えるように、盛土にしていったようです。

今回見つかった土坑の一つから、完全な形で石製の硯が一点出土しました。表面はよく使われてすり減っています。注目すべきはその裏側です。金属の鋭い工具で、文字が刻まれていることが分かりました。詳細な検討はこれからとなりますが、「□□町 お茶屋 すすり」と書かれているようです。（川添和暁）

25Cb 区　大型土坑から出土した焼塩壺（上：蓋、下：身）

形状から 18 世紀代のものと考えられます。

25Cb 区　大型土坑の遺物出土の様子

25Cb 区　大型土坑から出土した硯（左：表、右：裏）

25Ab区 発掘調査の成果

六月は東西に長い発掘調査区の調査から始まりました。

一面目は近代以降の生活の痕跡が見つかっています。特に注目すべきは二つのレンガ積みの遺構です。これらは出土した位置から、次の二つの時期に造成されたと判断されます。

一つは明治時代に設営された愛知県立第一中学校の校舎の基礎です。調査区の東側に位置します。これは、幅約一m、長さ二十m以上の東西に延びるコンクリートの上にレンガを敷き詰めた構造をなします。片側にはU字溝も見つかっています。

もう一つのレンガ積みの遺構は、戦後に造られた愛知県立第一高等女学校に関連する遺構です。調査区の西側に位置します。上から見ると「ト」の字のような溝です。溝の幅は約八十cmで、2基見つかっています。積み上げたレンガはモルタルで覆っており、コンクリート製の入り組んだ迷路のようでもあります。

このレンガ積み遺構の溝の中からは白色の陶器の破片の塊が見つかりました。遺構の上はトイレや手洗い所の様なもので、上水・下水処理施設だったのかもしれません。

それより下の層には江戸時代の整地層が広がっています。今回見つかった遺構の下には江戸時代の生活の痕跡が観察できると予想しております。

（柳原麻子）

ウシを象ったセトノベルティ

愛知県立第一高等女学校のレンガ積み遺構と出土陶器片（右下）

愛知県立第一高等女学校のレンガ積み遺構の断面

コンクリートの基礎の上にレンガを積み上げ、モルタルで表面を覆っている構築方法が分かります。

→レンガ積み遺構の裏込めから出土した「祝御卒業」銘の湯呑。なぜ捨てられていたのでしょう。

25Ab 区　一面目全体の様子（およそ 600 分の 1）

愛知県立第一中学校基礎

コンクリートがむき出しになっていますが、レンガのはがれた痕跡が見られます。

愛知県立第一中学校基礎断面

水はけをよくするためかコンクリートの下には砕石が敷き詰められています。